

除雪対策費8億4600万円を専決処分 2年連続の大雪か

鶴岡市は11日、除排雪経費の増加に対応するため、市長専決処分で、除雪対策費8億4600万円を追加・補正しました。
当初予算は5億6281万8千円で、補正後は14億881万8千円になります。

市長専決処分は、25日予定の市議会臨時会に報告され、承認が求められます。

合併後、市の除雪対策費の決算では、2017(平成29)年度の高で、次いで20(令和2)年度が18億812

8万円でした。
朝日に豪雪対策本部
朝日地域では1月4日、大網の観測地点で積雪量が140cmとなり、今後も降雪が予想されることから、豪雪対策本部が設置されました。

鶴岡市の除雪対策費決算額の推移 (円)

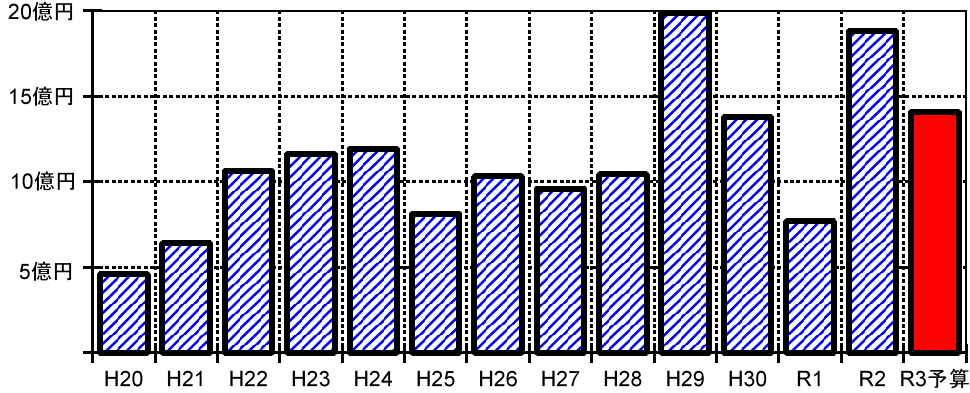
H20	459,042,000
H21	641,349,000
H22	1,064,570,000
H23	1,162,980,000
H24	1,194,105,000
H25	813,839,000
H26	1,031,892,000
H27	962,022,000
H28	1,044,157,000
H29	1,989,553,000
H30	1,375,981,000
R1	768,418,000
R2	1,881,285,000
R3予算	1,408,818,000

豪雪対策本部の設置は、本所の観測地点(鶴岡公園)が70cm、大網で150cm、温海川で150cmで、道路事情が悪化し、引き続き降雪が多量に見込まれる場合を基準としています。



藤島地域の新年祝賀会が5日、藤島地区地域活動センターで開かれました。コーラス藤の花による合唱に、大きな拍手が寄せられました。

鶴岡市の除雪対策費決算額の推移



藤沢周平を読む ⑳ 鈴木重雄(八色木)

「正月に死んだ弥作という子。子供のころ、きぐちゃんとかよく遊んでいたども」

「年はなんぼだ?」

「十七」

大驚坊は立ちどまつて指を練つた。

「ほつ。その男がの。」

おぎく歩けなくなつたのはそのすぐ後だ。あの子はちようど、死んだ男を思いつめて自分も死にたいと思つてい

るあんべえた」

おとしは背筋のあたりぞつとすると寒気が走つたような気がした。

「それで、なおしえますか」

「さあて」

大驚坊は額に皺をつくつて、考え込んだ。

「やつてみねば、わがら無の」

「利助どサ、あげだごと言わねばえがったの」

おとしは思わずなじるように言つていた。

「あげだ立派な口きいてしまつて、もしなおしえねば、村から追ひ出さえるだろちや」

おとしは急にすけずけ言い出したので、大驚坊は驚いたようにおとしを見たが、言葉を返すでもなく、気弱な笑いを髭面にうかべただけだつた。

野道から街道に出ると、ぱつたりと利助に会つた。利助は鶴岡にでも行つて来たらしく羽織を着ていた。挨拶したが、おとしは何となく気づまりだつた。利助は村役人も勤めている親方衆、こ

ちらは漸く喰つていような貧農という身分の違いもあるが、おとしの気持ちの中には、例の一件がひっかつている。

はつたりめいたことを言つた大驚坊も悪いが、それを受けておぎくの足をなおせと言つた利助の意地の悪さも相当なものだ、おとしは思つてい

あれ以来おとしは利助にいい感情を持つていなかった。

利助の本音は、若造の大驚坊など信用せず、気心の知れた月心坊を、神社の別当にして置きたいということに違いなかった。

「聞いたが、おとし。今度の山伏ど、でえぶ我折つてい

る様子だぞ」
利助はくすくす笑つた。

「はえ。どげだことだろ?」

「まだ、おぎくの足なおしえなくでの、なんでもあの子背負つて、村の中歩いていって評判だが」

三左門の婆の話によると、大驚坊は天気のいい日は必ず、おぎくを背負つて外に出ているのだ。ほかに祈禱や呪いめいたことはひとつもしていない。

おぎくを背負つて街道まで出て、人や馬時には駕籠も通る様子を眺めたり、子供たちが遊んでいる様子を見せたり、山に行つてまだ青い山葡萄を摘んできたりしているだけだといふ。

議会懲罰特別委員会

「市民がどう感じたか確認を」と投書

鶴岡市議会懲罰特別委員会（渋谷耕一委員長・10人）の第2回委員会が7日開かれまし

た。問題となったのは、12月議会16日の本会議で、「沖繩戦戦没者の遺骨土砂の使用計画中止を求める請願」の田中宏議員の賛成討論です。田中議員は、7日の

総務常任委員会での請願審査で、請願者のプライバシーを詮索し、署名の正当性を疑ってかかるような質問がされ、高圧的に響き、傍聴していた請願者に大きなストレスを与えたとして、「副議長も務めたベテラン議員がそのような発言をされたことに耳を疑った」などと、佐藤博幸議員と特定される発言をしたことです。

田中議員は発言取り消しを申し出て、17日の本会議で全会一致で許可されました。しかし、小野由夫議員（無所属）が、「冒とくに当たり、取り消しだけで済む問題ではない」と議事運営の動議を提出。その後小野議員を含め4人が、「当該議員の人格を著しく貶め、無礼極まりない発言である」として懲罰動議を提出し、賛成多数で可決されました。

規律と品位を保持

懲罰とは、議会の自律権に基づき、議会の規律と品位を保持する

ために、議会の秩序を乱した議員に対して、議会が科す制裁とされています。

審査の結果、懲罰事犯であると決定した場合には、①戒告、②陳謝、③出席停止、④除名のうち、いかなる種類の懲罰を科すべきかを決定し、議会に報告するというのがものです。

第2回委員会では、審査方法と、今後の予定について確認され、14日午後1時開催の第3回委員会では、懲罰発議者の説明と、田中

議員の弁明を行い、質疑討論の後に、採決を図ることが決定されました。

市民から投書

市民から議会に対する匿名の投書が寄せられ、委員に配布されました。

投書では、「田中議員の討論は正当な批判の範囲内」、「委員会の場にいた市民が、どう感じたか確認されるべき」などの指摘があります。田中議員の発言は、すでに全会一致で取り消され、議事録にはありません。

ひと

井尻正二①

優れた科学者をレッドパーズ

青山 崇



井尻正二先生は、1913年小樽市生まれ。祖父は道議会議員をも務めた資産家であったが、父は政治道楽で資産をつぶし、一家は井尻先生が中学を卒業すると、東京に引っ越した。

1947年、東大地球科学卒業、国立科学博物館に就職、同年、若手地学研究者の中心となって広く呼びかけ、地学団体研究会（地団研）を創立する。

研究・普及・条件づくりを三位一体として進めるといふ、当時としては珍しい基本方針であった。

「条件づくり」とは、研究条件で「科学・技術が他国への侵略の目的や戦争の準備のために使われないよう努力する（※非核の政府を求めると加入）」ことを掲げている。

さらに団体は皆で進める研究である。

その好例は、地元の人がナウマンゾウの臼歯を発見（きゆうし：長さ30cm、重さ5kg：下図）をきっかけにした長野県野尻湖ナウマンゾウ発掘である。



1962年に始まり今も続き、全国から子ども大人も参加している。博物館もできた。

この発掘も「議論よりもまず発掘」の井尻先生の声かけで始まった。地団研を作った井尻



それで大丈夫か

第6波は来たのか。

沖縄では来た・と言っているようだ。ここでは、日本を守ると言う米軍からの感染ではないかと言われているんだ。なぜなら、そこでは集団感染が起きているからだ。それでいて、マスクもしないで街中に出てくるんだから。飲酒運転で捕まったヤツもいた報道も、日本の豚箱に入ったのか。彼らには、日本が許した特権があるからサ。殺人を犯しても日本側で逮捕できなかった事が何度かあったから。集団感染も、今の新しいヤツだか調べて・と頼んでも、うんと言わなかったデシヨ。それでいて、国外からの出はいりは自由なんタテ。これじゃ水際対策を強化したと言っても堤防が破れて洪水を起しているようなもので

先生は、2年後の1949年11月、悪名高いレッドパーズで地学科長であった職場を追われた。

以後、途中で数年教鞭をとるが、著述で一家を支えた。



（博物館展示）ナウマンゾウ・レプリカ

沖縄の知事でなくとも怒りたくなるワナ。米軍の基地があるところでは皆同じだが。

▲そんなこんなでコロナの発生は、千人がすぐ2千人を超えたよ。3回目の注射を早めたいと、首相は随分前から言っていたが、始められないのはなぜなんだい。あると言う薬がないんじゃないの？。

▲オミクロン株は、感染が早いと言われているのに、全員隔離の方針を変えて自宅療養にするだろ？。それじゃ感染は抑えられメーゼ。去年の五輪の時ように、医者にかからずに自宅で死ねてガ。これは医療費の削減の為？。これが首相の言っていた「新しい資本主義」なんですかい？。

▲アベ政治以来の自公政治。俺には信用できない事が多い。コロナじゃ2年も経験したんだぜ。皆がこれならばの方向を出せや。（石川）